



CASA出前授業

地球温暖化問題ってどんな問題？ 私たちにできることは何？ ～於：箕面こどもの森学園～

5月25日、CASAは、認定NPO法人 箕面こどもの森学園（大阪府箕面市）で出前授業を行いました。箕面こどもの森学園には小学部と中学部があり、50名の子どもたちが学んでいます。子どもたち一人ひとりが抱く「なぜ」を出発点とし、探求しながら学ぶ「ワールド・オリエンテーション」を取り入れており、2017年度1学期の学習テーマは「気候変動～地球とわたし～」に取り組むということでした。子どもたちは、まず、気候変動についてどんなことが観測されているか、どんな影響があると言われていているか等をクラス合同（小学部高学年と中学部）のグループで調べたり、クラス別にさらに理解を深めていきます。これらのプロセスを経て、子どもたち自らが研究テーマを設定し、それについて詳しく調べ、発見したことや考えたことをまとめていきます。1学期の終わりに「地球レスキューこどもの森会議」を開き、問題解決のために学園で取り組むことを子どもたち主導で話し合い、決めていくということでした。

今回、CASAの出前授業は、小学部高学年の皆さんと中学部の皆さん合同で開催したのですが、学年の違いを超えて、自由なムードのなかで考え、生き生きと発言していた子どもたちの姿がとても印象的でした。CASAでは、引き続き小学生や中学生の皆さん向け出前授業の取り組みを進めていければと願っています。

1 時間目：地球温暖化の進行と世界の取り組みを知って

CASAスタッフ土田から、①温室効果ガスがあるおかげで地表の平均気温が約14℃に保たれ、快適に暮らしていける環境が保たれていること、②人間が

出す温室効果ガスのなかで最も多いのは二酸化炭素（CO₂）であること、③すでに地球温暖化は進みつつあり、産業革命前と比べるとすでに約1℃平均気温が上昇していること、④たった1℃であってもすでに様々な影響が観測されていること、⑤世界の科学者はこのままでは2100年には4℃上昇すると予測していること、⑥世界の科学者が将来の主要なリスクとして警告を発している内容などを紹介しました。

地球温暖化の進行と将来について、「観測されているいろいろなことは遠い外国で起こっていることで、日本に暮らす私たちには関係ないことだと考えていいだろうか?」、「たとえ影響があるとしても、遠い未来の話だろうか?」ということを考えてもらいました。

さらに、日本は、世界全体のCO₂排出量では中国、アメリカ、インド、ロシアに次いで第5位であるが、1人当たり排出量では9.5トン（2014年）と、中国やインドのそれを大きく上回る主要な排出国であることを紹介¹。地球温暖化の原因となる温室効果ガスをたくさん排出してきた国と、地球温暖化による深刻な影響を被る国とが違い、問題解決には難しさがあるが、世界の200近い国々が国連の場で人類生存にとって危険なレベルである2℃の気温上昇を超えないよう、協力して取り組みを進めるために話し合っていること、日本に暮らす私たちが出すCO₂の量を減らしていくことが大事であることを伝えました。パリ協定については、2015年12月、徹夜続きの話し合いの末によりやく採択され、その歴史的な瞬間、会場内は総立ちで拍手がしばらく鳴りやまず、抱き合っただけで涙を流す人々もいたこと、これからを生きる今の子どもたちにとってとても意味のある条約であることを伝えました。

¹ 全国地球温暖化防止活動推進センターウェブサイト (<http://www.jccca.org/>) より

2時間目：普段の暮らしを見つめ直して、 解決策を考える



2時間目の様子

地球温暖化問題を「自分事」として考えるため、「朝起きてから、学校へ行き、学校から帰って、眠るまで」の暮らしを振り返る作業に取り組んでもらいました。グループに分かれて、普段どんなふうになんかをして過ごしているかを思い出し、どうすれば省エネ・省資源・節約、エネルギーを大切に使う暮らし方になるかを話し合ってもらい、最後にグループごとに発表し、意見をみんなで共有しました。

- 近いところへ行くときは自転車や歩きで行く。
- 水を出しっぱなしにしない。
- 夜は早く寝る。
- 昼は電気を消す。
- 洗濯物はまとめて洗う。
- うちわを使う。
- 食べ物をできるだけ残さない。
- 戦争をしない。

グループで話し合いをするとき、さっそく教室のブラインドを上げて光を取り入れ、教室の電気を消しても大丈夫だと言ってくれる子どもたちがいました。土田からは「『無理なく、我慢なし』をキーワードにできることを少しずつやってみてください」と伝えて、出前授業を終了しました。

6月27日「地球レスキューこどもの森会議」で

1学期が終盤に近づいた6月27日、子どもたちによる「地球レスキューこどもの森会議」が開かれ、CASA専務理事の早川とスタッフ土田がオブザーバー参加しました。

会議の司会進行は子どもたちが務めます。学園ではこの日のために、目安箱ならぬ「みんなでできること アイデア募集中 ポスト」を置き、みんながポストに意見を入れておきました。会議ではポストに入れたアイデアを書き出して一覧にし、1つずつ内容を検討して、学園で取り組むアクションとして採用するかどうかを話し合います。保護者の方や学園のスタッフの皆さんからも随時意見が出され、子どもたちも大人もみんなが一緒になって考えて決めていくというムードがとても素敵でした。議長を務めた中学部の生徒さんの采配が素晴らしく、年齢も考えも違うみんなから出される意見の取りまとめを見事にこなしていました。

土田 道代 (CASAスタッフ)